

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるよう!

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

(平成8年5月20日第三種郵便物認可)

2006(平成18)年2月15日 第395号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭

発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話03-3269-1131

http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)

労働安全衛生法が改正

過重労働・メンタルヘルス対策で 医師による面接指導制度を導入

昨今の産業構造の変化や働き方の多様化などを背景に、安全衛生活動の不足にともなう重大災害の発生、長時間労働による健康障害の増加、子育て世代の生活時間確保の困難化など、働く人の生命や生活に関わる問題が深刻化している。とくに長期間にわたる疲労の蓄積によって脳血管疾患や虚血性心疾患(脳・心疾患)、精神障害を発生する人の数は増え続けており、その対策が急務となっている。こうしたなか、職場における労働者の安全と健康確保の充実強化を目指した、労働安全衛生法の一部を改正する法律が昨年11月2日に公布され、4月1日より施行の運びとなった。

わが国では近年、仕事や職業生活に関して強い不安やストレスを感じている労働者の割合が、全体の6割にまで増えている(図1)。また、高脂血症や高血圧症などの所見がある人の割合が高いことが指摘されている。こうしたなか、過重労働に

の自殺者の増加も大きな社会問題となっている。これらの状況をふまえて厚生労働省は、12年8月に「事業場における労働者の心の健康づくりのための指針」を、14年2月には「過重労働による健康障害防止のための総合対策」を策定し、メンタルヘルス対策や過重労働による健康障害の防止対策を進めてきた。今回改正された労働安全衛生法(改正労働安全衛生法)はその取り組みの一層の充実強化を目指した内容となっている。

またそれ以外の労働者で、「長時間労働により、疲労の蓄積が認められ、または健康上の不安があり、申し出た労働者」や「事業場で定めた基準に該当する労働者」などに対して、面接指導の実施やそれに準ずる措置を行うことが事業者の努力義務とされている。

このほか今回の改正では、個人情報保護法をふまえて、これまで義務づけられていた一般健康診断と同様に、特殊健康診断の結果についても労働者本人への通知が義務づけられることとなった。

図1 強い不安、悩み、ストレスがある労働者の推移

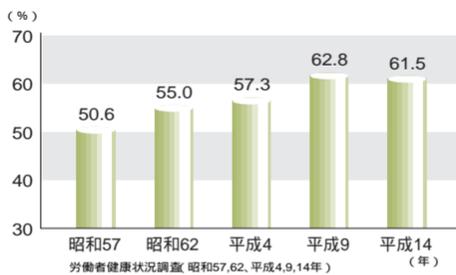
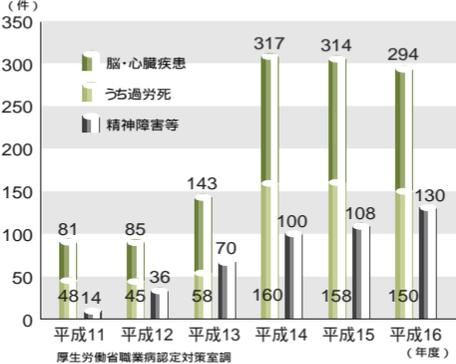


図2 脳・心臓疾患、過労死及び精神障害等に係る労災認定件数の推移

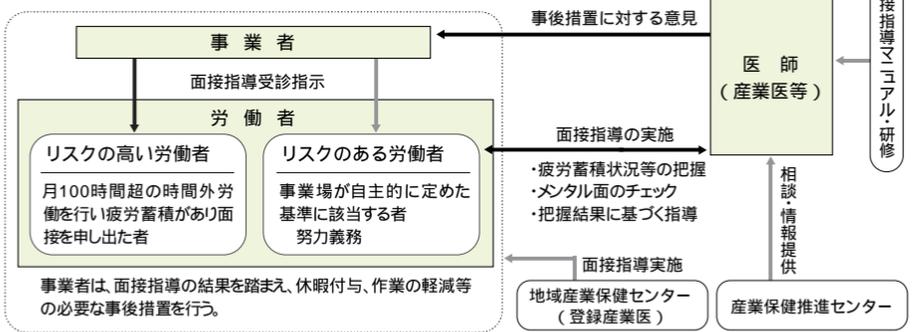


よって脳・心疾患や精神障害などを発症したとして労災認定される労働者の数も増加し(図2)、労働災害による死亡者のうち約1割を脳・心疾患による過労死が占めるまでになった。また、働き盛り世代

はならない。また面接指導の結果を記録し、その労働者の健康を保持するために必要な措置について医師の意見を聴き、必要があると認めるときは、労働者本人の実情を考慮して、就業場所の変更や作業の転換、労働時間の短縮、深夜業の回数削減などの措置を講じなければならぬ。さらに、医師の意見を安全衛生委員会や労働時間等設置改善委員会へ報告するなど適切な措置を講じなければならない。

なおこれらの面接指導は、4月1日よりすべての事業場に適用されるが、労働者数50人未満の事業場については2年間猶予される。こうした医師による面接指導制度の導入により、過重労働による健康障害の防止や、メンタルヘルス不調者の早期発見が期待される。いっぽうで、対象となる労働者が申し出やすい職場環境づくりや、面接指導内容の充実、適切な事後措置の実施などが今後の課題となっている。

図3 長時間労働者等に対する面接指導制度



今月の主な紙面

- 1面 労働安全衛生法が改正
- 2~3面(見開き) 話題「NASH・非アルコール性脂肪肝炎」連載「森林へ行こう」第4回 連載「おことばですが... 保健指導反省記」第10回 健康づくり・健康増進を支援するページ 対策編 第10回
- 4面 第205回ヘルスケア研修会「一次予防への取り組み」でパネル 「産業医訪問」第65回 人間ドック担当医師ミーティング開く・本会お知らせ

「事業者は、月100時間を超える時間外労働を行い、申し出た労働者に対して、医師による面接指導を行わなければならない。」

個人情報の取扱いについて

日ごろより、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。そのうえで今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

お問い合わせ・ご相談は 予約制) 電話 東京(03)-3269-1141
健康管理コンサルタントセンター 事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1の2 (財)東京都予防医学協会

コンサルテーションのご案内

- 3月 1日 岡 惺治(健康管理コンサルタント)
- 8日 三輪祐一(東京都予防医学協会総合健診部長)
- 15日 岡 惺治
- 22日 三輪祐一
- 29日 第206回ヘルスケア研修会につき休み
- 4月 5日 岡 惺治
- 12日 三輪祐一
- 19日 岡 惺治
- 26日 三輪祐一

第205回ヘルスケア研修会 「二次予防への取り組み」でパネル

さる1月25日、健康管理コンサルタントセンターと本会が主催する第205回ヘルスケア研修会が開催された。研修会では「二次予防への取り組み 集団・個人へのアプローチ」のテーマでパネルディスカッションが行われ、職域保健・産業看護塾主宰の飯島美世子氏の司会のもと、味の素川崎健康推進センターの辻と子氏、電通健康保険組合の宮田理恵氏、富士通あきる野テクノロジセンター健康推進センターの三橋祐子氏がそれぞれの取り組みを発表した。研修会には、職域の健康管理関係者ら約150人が参加し、盛会となった(写真)。

パネルの冒頭、司会の飯島氏は今回のテーマの趣旨について次のように述べた。「一次予防中心の保健事業の強化充実や、生活習慣病時代に即した新たな健康増進活動の推進が求められるなか、職域の健康管理の役割の1つは、生涯にわたってセルフケアのできる人の育成にある。3人のパネリスの具体例をもとに、職場の保健活動について工夫と工夫、仕組みづくりや働きかけ方などについて討議したい。」

飯島氏は「全員面談を利用して二次予防への取り組み」と題して報告した。辻氏は、「当社の健康の基本理念は『セルフケア』であり、そこに会社が関与する軸となる

配偶者、特別退職被保険者(特退者)とその家族、といった対象別の3つの「健康フェア」の概要を紹介した。宮田氏は、社員対象のフェアでは、血管測定や健康度チェックなどを加えて体験型になるように企画、特退者対象のフェアではウォーキングを企画して高齢者の医療費抑制を図ったと述べたうえで、事業所と健保組合が一丸となって実施した「健康フェア」が電通の健康づくりの風土の醸成につながっていると評価し、「今後は健康に関心の向いていない人にも受け入れられるような企画立案が必要だ」とした。

最後に、三橋氏が「事業所内食環境改善活動の実際」をミニミニ・エンパワメントによる健康支援」と題して社内食堂やコンビニなど社内

の食環境の改善を通じて、健康的な職場づくりに発展させた取り組みを発表した。三橋氏は、食堂コンビニ部門担当者、総務部、労働組合、健康推進センターによる社内協働の「食プロジェクト」の発足の経緯と、食堂でヘルシメニーが提供されるまでの活動の詳細を紹介したうえで、その成果や今後の展望などを報告した。

さらに、夕食で地域の外食店を利用する社員が多いことから、自治体の保健師とも連携するなど、今後取り組みの輪を地域にまで広めていく計画があることも述べた。

「セルフケア」への健康支援の実践報告をもとに討議



パネルの冒頭、司会の飯島氏は今回のテーマの趣旨について次のように述べた。「一次予防中心の保健事業の強化充実や、生活習慣病時代に即した新たな健康増進活動の推進が求められるなか、職域の健康管理の役割の1つは、生涯にわたってセルフケアのできる人の育成にある。3人のパネリスの具体例をもとに、職場の保健活動について工夫と工夫、仕組みづくりや働きかけ方などについて討議したい。」

飯島氏は「全員面談を利用して二次予防への取り組み」と題して報告した。辻氏は、「当社の健康の基本理念は『セルフケア』であり、そこに会社が関与する軸となる

配偶者、特別退職被保険者(特退者)とその家族、といった対象別の3つの「健康フェア」の概要を紹介した。宮田氏は、社員対象のフェアでは、血管測定や健康度チェックなどを加えて体験型になるように企画、特退者対象のフェアではウォーキングを企画して高齢者の医療費抑制を図ったと述べたうえで、事業所と健保組合が一丸となって実施した「健康フェア」が電通の健康づくりの風土の醸成につながっていると評価し、「今後は健康に関心の向いていない人にも受け入れられるような企画立案が必要だ」とした。

最後に、三橋氏が「事業所内食環境改善活動の実際」をミニミニ・エンパワメントによる健康支援」と題して社内食堂やコンビニなど社内

の食環境の改善を通じて、健康的な職場づくりに発展させた取り組みを発表した。三橋氏は、食堂コンビニ部門担当者、総務部、労働組合、健康推進センターによる社内協働の「食プロジェクト」の発足の経緯と、食堂でヘルシメニーが提供されるまでの活動の詳細を紹介したうえで、その成果や今後の展望などを報告した。

さらに、夕食で地域の外食店を利用する社員が多いことから、自治体の保健師とも連携するなど、今後取り組みの輪を地域にまで広めていく計画があることも述べた。

最後に、三橋氏が「事業所内食環境改善活動の実際」をミニミニ・エンパワメントによる健康支援」と題して社内食堂やコンビニなど社内



財団法人労働科学研究所
研究部 主任 研究員
吉川 徹氏

1 あなたの産業医歴は?

私は平成8年に産業医科大学を卒業し、4年間の卒業後修練コースを終了して、平成12年の6月にこの研究所に came ました。同時に、川崎市の学校と川崎市環境局の嘱託産業医をやらせていただくことになりました。

学校の先生の産業医というのは、川崎市の小学校・中学校を設けてもらいました。そう

すると、先生方から職場環境改善に関するアイデアが寄せられるようになり、そこで検討した記録を残すことで予算もつきやすくなりました。そういうプロセスを踏むことで改善が進むということがよくわかりました。

環境局の仕事は現在も継続していますが、なかでも一番重きを置いているのが「三収討を重ね、話し合いの場として各学校で、創意工夫の会」

最近川崎市では、メンタルヘルスに関する復職支援システムと安全衛生マネジメントシステムという2つのシステムの整備を進めています。復職支援システムでは、休職・復職時に必ず産業医面接を行うことになっていて、マネジメン

仕事を希望した理由の1つに、アジアの労働衛生全般の環境改善を通じたメンタルヘルス対策を進めることなどを共同研究しています。

また、海外での活動も重なりますが、医療従事者の産業保健というのにも関心があります。病院にも産業医の3分の1くらいを、アジアの労働者教育のための参加型プログラムを開発した

最近で は、じっくり 働組合によるワークショップ。健康診断等による個人へ

▶▶65◀◀

2 あなたのやりたいこと、今、取り組んでいることは?

えなかつたのですが、実際に現場に出て、体験乗車などをさせてもらって、同じ目線で仕事に取り組んでみると、たとえば腰痛を予防するには健康だけのアプローチではなく、安全に作業ができる状況かどうかというところがとても重要で、安全と健康は全く同じ土台にあるものだとということがよくわかるようになりました。

最近川崎市では、メンタルヘルスに関する復職支援システムと安全衛生マネジメントシステムという2つのシステムの整備を進めています。復職支援システムでは、休職・復職時に必ず産業医面接を行うことになっていて、マネジメン

仕事を希望した理由の1つに、アジアの労働衛生全般の環境改善を通じたメンタルヘルス対策を進めることなどを共同研究しています。

最近で は、じっくり 働組合によるワークショップ。健康診断等による個人へ

お知らせ

第224回学校保健セミナー
学校腎臓検診
春の健康診断を迎えるにあたって
3月27日(月)午後1~3時
東京・市谷「グランドヒル市ヶ谷」

第225回学校保健セミナー
学校心臓検診
春の健康診断を迎えるにあたって
3月29日(水)午後2~4時
東京・市谷「ルーテル市ヶ谷センター」

学名教授が腎臓検診の現状と検診後の管理指導について講演を行う。

会場の「グランドヒル市ヶ谷」は、JR中央線、東京メトロ有楽町線・南北線、都営地下鉄新宿線「市ヶ谷駅」下車徒歩3分のところ。入場無料。定員200人(当日先着順)。

第224回学校保健セミナー
3月27日(月)午後1~3時
東京・市谷「グランドヒル市ヶ谷」

第225回学校保健セミナー
3月29日(水)午後2~4時
東京・市谷「ルーテル市ヶ谷センター」